



アイデア勝負町おこし



今回の記事では工織大が力を入れているこの事業に関する部分を取り上げました。すべての内容を自分で持ったので色々な人に助けてもらい、やっとの事で、記事の形にすることができました。自分もリーダーシップ基礎を受講していたので広く知ってもらえてよかったです。

@綾部 限界集落を元気に

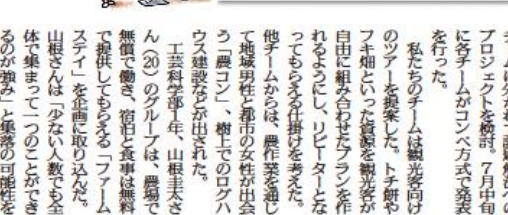
地元の声聞き、課題解決法提案

「リタイアシップ基礎」を受講する学生20人が日田地区を訪れた。今年からの目で、リーダーとしての資質を学びながら、地域の課題を解決するプロジェクトを提案するのだ。

課題は同市の本郷の里3地区の活性化だ。私も含め参加した学生は多く、事前準備が足りない地でも、まっしぐらに何を欲しているかを知らなければなら

らない。綾部市職員から京都府左京区の工織大で同話をうかがったのは、実際に現場を見て、地住民の声を聞いた。

地域には、地域のシンボルのトナリキの実を使ったトナリ餅が有名で、都市住民向けにトナリ餅一つ一つがコンペ方式で発表を行った。



私たちがチームは観光客向けのツリーを提案した。トチ餅やトナリ餅といった資質を観光客が自ら組み合わせたプランを準備するよ、リビーターと作ってやる仕掛けを考えたい。

他チームからは、農作業を通じて地域男性と都市の女性が交流する「農コン」、樹上でのログハウスの建設などが出された。

工芸科学部1年、山根圭太さん(20)のグループは、無料で無償で働き、宿泊と食事は無料で提供してもらえる「ファミルステイ」を企画に取り込んだ。

山根さんは「少ない人数でも全体で集まって一つができるのが強み」と集客の可能性を感じていた。

京都工芸繊維大副学長森迫清貴さんの話 地方発「隙間産業」で世界へ

「2007年から始まり、これまで丹後の特産物(材料)にした「黒丹バーガー」と、丹後芋のりんごを用いた「エゴバツグ」(クレベ子)、ホリエステルちりめんを使った折りたたみ傘の3提案が商品化された。

一方、課題は事業化率が低いことだ。昨年度までの8年間で61件が提案されたが、商品化は約1%。検討中も件数は多い。

このため、本年度から学生が自由に提案する方式から、協力企業が出し手案を基に学生が考えという手法を知えた。吉村さん(「審査会」に至るまで提案)が関わりを持ってアイデアを提案することも可能。より事業化が見込める」と期待している。

必要です。そのためには京都府北部の京丹後市や綾部市のような地方中核都市の発展が不可欠です。

京都工芸繊維大は、サテライトキャンパスを2002年から京丹後市に置いています。地域の住民や高校生が大学と大学教育を知る機会になっており、多くの産業で起爆剤の役割を果たしてきたい。2年後には福知山市にも設置予定です。

学生は専門分野も多彩で、今までとは違った見方や解決策にたどり着く可能性が。地域にそういう環境があることが大切だと考えています。

@京丹後 地元企業と商品開発

京丹後市は、地域資源を生かした伝統的・新商品のアイデアを競う「京丹後市発想アイデアコンペティション」を行っている。学生が丹後の自然や産物に基づいて斬新なアイデアを提案する。今年ほど大学から、起業アイデアや新たなビジネス、新規開発などが持ち寄られた。

京都工芸繊維大が協力し、同大学の学生ほか、京丹後市内の大学の学生が京丹後市を訪れ、地域性を踏まえ提案する。市商工振興課の吉村拓也さんは「地理文化、歴史といった地域資源と大生の知と発想を融合させ、新たなビジネスを創造する」

学生の知と発想で新風
「黒丹バーガー」など事業化

京丹後市発想アイデアコンペティション入賞例

- 高評価は多い、 は期待が大きい
- 折りエスデルちりめんを用いたエコバツグ (Egobatsu (クレベ子))
- 熊鷹にちなんだ折りエスデルちりめんを使った傘
- 豆丹後のちりめんを使った「黒丹バーガー」
- グリーンサービスと活用イベント企画
- プライダルトイレイン



広報チームK-NOSBYのメンバーの学生が京丹後市が主催する「京丹後市発想アイデアコンペティション」に参加しました。その経験を活かして「地域と工学」をテーマにした今回の@キャンパスの記事は作成されています。

京都工芸繊維大
広報チーム
K-NOSBY

今週の記者

工芸科学部
2年 下村 祐輝 (20)

うちの新聞

京都工芸繊維大の魅力や学生目線で発掘・発信することで、京都や日本、世界での知名度向上やブランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイス

ブックやツイッター、LINE (無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介紙の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。